

げんだいじん

かか

現代人との関わり

現代における黒曜石の利用方法と言えば、“十勝石”として道の駅や地元物産店、ネットオークションなどで、円礫の原石をそのままの状態の販売したり、片面を綺麗に研磨し模様や絵を入れて置き物として売っていたりします。また、綺麗に加工して、“オブシディアン”という名称のパワーストーンやアクセサリーとしても利用されています。

その他、あまり知られていない所では、工業分野にも使われています。黒曜石(他に真珠岩やピッチストーンなど)は、約1,000℃前後の高温で焼成すると発泡し、パーライトと呼ばれる多孔質の軽量素材製品になります。これには断熱性・保温性・耐火性(約1,400℃まで)があるため、加工して建築資材になります。

また通気性や排水性に優れているため、園芸用土としても利用されます。例えば、商品名でビーナスライトやパーライト、セントポーリアの土という改良用土として売られています。

黒曜石の比重は約2.4前後ですが、発泡させると、それが約0.1まで低下し、水を含んだ時でも比重が0.2にしかありません。水や海水に対して十分な浮力が得られることに着目し、特殊加工により油吸着材を表面に付け、廃油や流出油を選択的に回収することができる製品もつくられています。



北海道の道南にある奥尻島の勝瀾山の大露頭。



奥尻島勝瀾山を特徴付ける黒曜石. このタイプは国内では3か所で見つかる。

このように現代では、黒曜石をそのまま使う他に、加熱後の特性を上手に生かして日常生活に役立つ製品を造り出しています。北海道では道南の奥尻島の勝瀾山・福島県の喜多方・大分県の姫島・佐賀県の古場で採掘・生産されています。

(学芸員 向井 正幸)



ASAHIKAWA
CITY

地学 Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

